

手術説明書

目の下のたるみ取り（下眼瞼除皺術）

この説明書は目の下のたるみ取り（下眼瞼除皺術）について、その目的・内容・危険性などを説明するものです。ご不明点は何でもおたずね下さい。

☑目的と内容

目の下のたるみ取り（下眼瞼除皺術）は、目の下の余剰皮膚や脂肪を除去・再配置することで、すっきりとした目元を実現する手術です。デザインを決定後、局所麻酔を注入し、無痛状態で施術を行います。目の下に沿った切開を行い、余分な皮膚や脂肪を丁寧に取り除きます。非吸収糸で縫合しますので、手術後7～10日後に抜糸が必要となります。手術時間は通常1～1.5時間です。

☑危険性

術後には以下のリスクが考えられますが、発生頻度は低く、個人差があります。

1)再出血・血腫

術後に再出血や血腫が生じる可能性があります。通常は圧迫や追加の処置で対応できますが、重症化する場合は追加手術が必要なこともあります。

2)感染

手術後の創部が感染する可能性があります。通常、抗生物質の処方や適切なケアで防げますが、感染が生じた場合には治療が必要です。

3)結膜充血

術後、目の結膜が赤く充血することがあります。これは切開や周囲組織への影響によるもので、数日から数週間で改善することが多いですが、長引く場合には治療が必要です。

4)目の乾燥（ドライアイ）

まばたきの頻度が減る、または目の周りの感覚が鈍くなることで、目の乾燥が起こる場合があります。目薬で対応できることが多いですが、症状が続く場合には医師にご相談ください。

5)角膜障害

術後の眼瞼の動きが一時的に不自然になることがあり、これにより角膜が傷つくことがあります。通常は経過とともに改善しますが、角膜保護が必要な場合があります。

6)皮膚壊死

術後の血行不良により、ごく稀に皮膚が壊死する可能性があります。壊死が発生した場合には、早期治療が必要です。

7)瘢痕形成・ケロイド

傷跡が肥厚し、盛り上がる瘢痕やケロイドが形成される可能性があります。体質によるところが大きく、事前に医師と相談することが望ましいです。

8)硬結

手術後に、目の下にしこり状の硬さが生じる場合がありますが、時間とともに和らぐことが一般的です。

9)左右差

手術前からの左右差がある場合、完全な均一にすることは困難です。

10)赤み・傷跡

通常、赤みは3~4週間で落ち着きますが、体質によって色素沈着が生じる場合もあります。
また、白い線状の跡が残る可能性もございます。

11)一時的な感覚の鈍さ

目の周囲に一時的な感覚の鈍さが生じることがありますが、通常は数週間から数ヶ月で回復します。

12)余剰皮膚の残存

腫れが落ち着いた後にたるみが残る場合、追加施術が必要なこともあります（料金は別途発生）。

☑注意事項

下記に該当される方は、事前にお申し出ください。医師の判断により、休薬や手術の調整が必要になる場合がございます。

- 1)妊娠中、授乳中の方
- 2)歯科や局所麻酔薬にアレルギーがある方
- 3)ヨード液でのアレルギー歴がある方
- 4)現在治療中または服薬中の疾患がある方
- 5)抗凝固剤、抗血小板薬（ワーファリン、アスピリン等）を服用中の方
- 6)心臓病、糖尿病、便秘、緑内障、脳梗塞、人工透析、高血圧症などで治療中の方

☑手術後の生活について

シャワー・入浴：当日から可能ですが、術後2週間は長湯を避けてください。

メイク：1週間後から可能です（抜糸が必要な場合は抜糸後）。

顔のマッサージ・ピーリング：術後1ヶ月は控えてください。

飲酒・喫煙：術後1ヶ月は控えてください。

サウナや激しい運動：術後1ヶ月は避けてください。

☑偶発症発生時の対応

術中または術後にアナフィラキシーショック等の偶発症が発生した場合は、最善の処置を行い、必要に応じて緊急搬送を行います。他院で生じた医療費については、患者様のご負担となります。

☑同意撤回

一度同意書を提出しても、施術が開始されるまではとりやめる事ができます。とりやめる場合にはご連絡をお願い致します。ご予約のキャンセルに関しましてのルールはキャンセルポリシーに準じます。

キャンセル可能期間中のキャンセル：無料受付

キャンセル可能期間を過ぎてのキャンセル：施術+診察料の100%の料金をご請求させていただきます。

※天災やその他、証明書が発行されるご事情によるキャンセルである場合、料金は頂きません。